

本学では、施設園芸農業における熱電供給設備利用の有効性を検証してきた。そこで本研究では、直近2年半にわたって運用してきた熱電供給設備に関する作業日誌を、経験知としてナレッジメントすることを目指した。主要成果は、トラブル箇所に関する共起分析により得られた。具体的には、トラブルの時系列データを用いて、同時にトラブルが起きる可能性が高い部品を、共起確率の算出により評価した。得られた結果は、共起ネットワークとして可視化できる。図1にその一部を示す。図1では、ノード円の直径が大きいほどトラブルが起きやすく、また線が太いほど共起性が高いことを示している。更に、本分析に基づいて、過去のトラブル一覧や共起部品をシステム構成図と紐づけて閲覧できる資料を作成した。

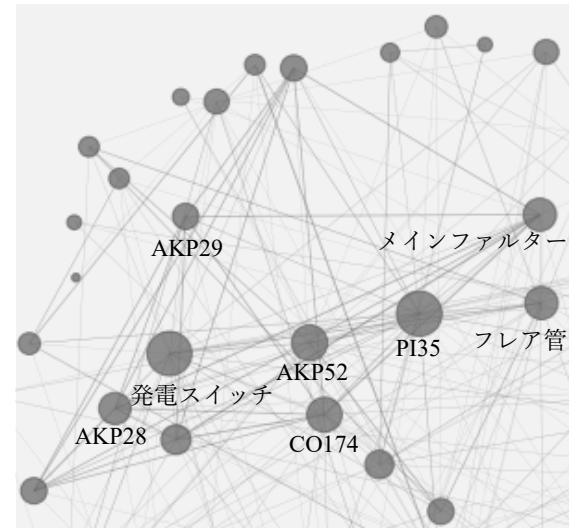


図1．共起ネットワークの抜粋